



2015年5月12日

保守党単独政権が誕生した英国の議会選挙

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 山口綾子

2015年5月7日の英国議会選挙で、キャメロン首相率いる保守党が650議席中331議席と単独過半数を確保し、首相続投が決まった。英国は従来、保守党と労働党の二大政党による政権のキャッチボールが続いてきたが、前回2010年の選挙ではいずれの政党も過半数にとどかず（ハング・パーラメント）、第1党の保守党と第3党の自由民主党との連立与党となっていた。選挙前の世論調査では今回もハング・パーラメントになり、スコットランド国民党（SNP）など左派の躍進により、連立を組むのが難しくなるのではと予想されていた。足下の英国経済は堅調に推移しており、デフレ懸念が払拭できないユーロ圏とは好対照である。こうした点も与党保守党には追い風となったようだ。

最大野党の労働党は強力な地盤であったスコットランドでSNPに完敗した。SNPは昨年9月のスコットランド独立を巡る住民投票で反対55対賛成45と敗北したものの、今回の選挙では59議席中56議席を獲得する圧勝で、自由民主党に代わり第3党の位置を確保した。第2次キャメロン政権にとり、スコットランドばかりでなく、その他も含めた地方政府への権限移譲を巡る議論が引き続き重要な課題となろう。

キャメロン政権は2017年末までに欧州連合（EU）との関係を見直し、脱退/残留を判断する国民投票を行うとしている。世論調査ではEU残留を望む声が依然として優勢であるが、ギリシャ救済を巡る混乱などを受けて、国民のEUへの不満は高まっている。今回の選挙でも欧州移民への福祉政策が争点の一つとなっていた。また2014年の欧州議会選挙で、二大政党を抑えて第1党となったEUからの離脱をめざす英国独立党

（UKIP）は、今回は小選挙区制に阻まれ1議席にとどまったものの、得票率では12.6%と3番目に位置し、有権者の間に反EUの声が一定数あることを示している。今後の国民投票の行方が欧州の不安定要因となる可能性には留意する必要があるだろう。

2015英国議会選挙の結果

	議席数	前回比	得票率	前回比
保守党	331	+27	36.9	+0.8
労働党	232	-26	30.4	+1.5
スコットランド国民党(SNP)	56	+50	4.7	+3.1
自由民主党	8	-49	7.9	-15.2
緑の党	1	0	3.8	+2.8
英国独立党(UKIP)	1	-1	12.6	+9.5
その他(注)	21	-1	3.7	-2.5
合計	650		100%	

(注) 得票率1%未満の政党はその他に分類。(資料) Financial Times, BBC報道より作成。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。